

2020年12月期第1四半期決算説明会における主な質疑応答内容
(2020年5月20日開催 於：オンライン説明会)

<全社>

Q：第1四半期の売上高と営業利益は、2月の期首予想からすると下回ったのか。また、第2四半期における業績への新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大による影響はどの程度か。

A：COVID-19拡大影響がなければ、もう少し伸びたのではないかと考えている。また、COVID-19拡大は現在も続いており、その影響のみに限った業績分析は難しく、現時点での回答は差し控えたい。

Q：COVID-19拡大影響による業績悪化への対策は。

A：キャッシュの流出を防ぐために、経費削減などこれまで以上に効率化を進めていく。

Q：2月14日に公表した業績予想を4月16日に取り下げた後、1か月という期間を経て、依然として予想を取り下げたままにしているのはなぜか。

A：COVID-19拡大影響による各国での外出禁止措置などを受け、人的リソースの確保が厳しく、決算発表さえ遅延せざるを得ない状況だった。業績予想は算定が出来次第、速やかに開示する予定だが、具体的な時期については回答を差し控える。

Q：米国・トランプ政権による中国企業・ファーウェイへの規制が深刻な問題になっている。米国による輸出規制強化による影響はあるか。

A：動向は注視しているが、当社に大きな影響があるとは今のところ考えていない。

<自動車計測事業>

Q：プロジェクトのキャンセルなどは出ているか。

A：大きな案件のキャンセルなどは今のところまだ出ていない。キャンセルよりも今後の新規受注獲得に向けての懸念が大きい。

Q：自動車の売上で、期ずれし、第2四半期以降に計上されてくるものは多いのか。

A：ある程度はある。また、行動制限下において、据付・検収を経ての売上計上がスムーズに行われない可能性もある。

<半導体事業>

Q：半導体事業での第1四半期の受注はどの程度か。

A：2019年第4四半期時点からおおよそ横ばいで推移している。2019年末からの回復基調が続いており、堅調に推移していると考えている。また、テレワークの増加などによるデジタル化の加速も、半導体需要にはポジティブと考える。

Q：COVID-19拡大影響により、マスフローコントローラーの部品調達などに問題は生じていないか。

A：現時点では大きな問題は生じていない。

Q：マスフローコントローラーの生産における工場の稼働率は？

A：2019年後半より稼働レベルを段階的に引き上げており、その水準を維持した稼働を継続している。

<環境・プロセス事業>

Q：環境規制導入の動向が鈍化するとあるが、具体的な状況は。

A：COVID-19拡大影響を受け、各国政府が環境規制よりヘルスケア分野を重視する方向になる可能性を考えている。

Q：米国にて石油精製プロセスに分析・計測機器を供給するプロセス事業の動向は。

A：原油価格の下落を受け、かなり厳しい状態である。

<医用事業>

Q：COVID-19拡大影響で血液検査が増えるなどのポジティブな影響はあったか。

A：COVID-19検査の一次スクリーニングでCRP測定が使われることもある一方で、通院患者数も減少しており、プラス・マイナスどちらの影響もある。

以上